

人いきいき☆町わくわく 滝上町子育て通信

今月号は「体」をテーマ
にお届けします!

子育てをしていく中で、子どもが日々成長していくことはとても喜ばしく、とても嬉しいことです。しかし、近年、「不慮の事故」が子どもの死亡原因の上位を占めており、成長に伴い、行動範囲が広がることで、様々な事故が発生しています。不慮の事故を防ぐためには、家庭だけではなく、地域全体で、子どもが安全・安心に生活できるように、子どもを取り巻く環境を整えることが大切です。子育て通信を通して、今一度、子どもの不慮の事故を予防するための方法について考えてみませんか。



子どもの成長・発達と事故予防

赤ちゃんは、お母さんのお腹から外の世界に適応していくための力を日々の生活の中で身につけていきます。はじめは、自分で動くことができる範囲が狭いですが、「寝返り」ができるようになり、その後、「ひとり座り」、「ハイハイ」、「つかまり立ち」や「歩く」、「走る」など、成長・発達していく中で、自由に動くことができる範囲が広がります。できることが増えていくことで、興味や関心の

あるものに対して自分から関わっていく「自発性」が育まれていきます。

日本では、窒息や溺水などの不慮の事故によって、14歳以下の子どもが毎年約200人亡くなっています。子どもは大人以上に行動の予測が立てにくく、「自発性」により、予期せぬタイミングで事故が起こってしまうことがあります。事故の内容は、子どもの年齢によって特徴があることから、いつ、どのような事故が起こりやすいかを知っておくことで、予防できる事故があります。

子どもの発達と起こりやすい事故の例	新生児		6か月		1歳	2歳	3歳
	発達の様子	寝返り		ひとり座り	ハイハイ	つかまり立ち	ひとり歩き
誤飲 窒息	枕・やわらかい布団		たばこ・薬・コイン・ボタン・電池など ひも・よだれかけ・ビニール袋				洗剤・化粧品などを開けて飲む ピーナツ・豆類
やけど	湯たんぽ・あなか 風呂・シャワーの湯		食事中に湯のみなどを倒す		ポット・炊飯器の蒸気に触れる ストーブ・アイロンに触る		ライター 花火 カップめん
溺 水				浴槽・洗濯機に転落して溺れる			海や川やプールで溺れる ビニールプール
転 落	親がうっかり落とす	ベッド	自転車	階段	ベビーカー いす		ブランコやすべり台 窓やベランダ
打撲や切り傷		角のあるおもちゃ		扇風機の羽にさわる 転んでテーブルの角などにぶつかる	ドアにはさまる		
その他	自動車内放置による熱中症・交通事故		自転車にのせたまま離れる				歯ブラシを口に入れたまま転倒する

子どもと遊ぶときに、子どもと同じ目線の高さで見える視界に上記のような事故の原因となるものはないか、確認してみましょう。

頻度が多い事故の一つである「誤飲・窒息」の予防では、子どもの手の届く範囲に小さなおもちゃなどを置かないようにしましょう。

※詳細については、日本小児科学会のWEBサイトで公開されている資料をご覧ください。

子どもの予防可能な
傷害と対策
(日本小児科学会 HP)



【問い合わせ先】保健福祉課
子育て世代包括支援センター ☎29-2111

●次回は「こどものおやつ」をお届けします。
お楽しみに!